Japanese Journal of Transfusion and Cell Therapy, Vol. 62. sup.　62（sup.）：18―23, 2016

パネルディスカッション 4

「全国大学病院輸血部会議からの視点」

松下　　正（全国大学病院輸血部会議代表幹事）

紀野：続きまして 4 人目の演者の先生です．全国大学輸血部会議という，大学病院の輸血部が集まった会議がございます．そこの代表幹事であります松下正先生に輸血部会議からの意見ということでお話しいただきたいと思います（スライド 1）．よろしくお願いします．

松下：よろしくお願いいたします．私からは輸血部会議からの視点ということで，主には輸血部会議で毎年やっております教員アンケートの結果等から大学病院における看護師の関わりといった点から少し事例をご紹介したいと思っております．こちらは会議のホームページなんですけれども（スライド 2），数年前に立ち上げまして，順調に活動しているところなんですが，何をやっている会議なのかということで時々ご質問いただくので，ついでにご紹介しておきたいんですが．メンバーとしては国立，公立，私立，であります．以前は国立大学病院輸血部会議という名称でしたが，そんな狭いことではいけないということで，現在は国公私立の，全ての大学病院，一部病院も入っていますけれども，それで構成されております（スライド 3）．

やっていることといたしましては，教育・啓発活動全般に関わる問題，管理・運営に関わる問題を年 1 回討議しておりまして，昨年から私が代表幹事で大戸先生と室井先生に幹事をお願いしてあります．昨年から毎年輸血部会議では宣言として会議の結論を，それぞれの当番校の先生が作成されたものをリリースしております．本年の宣言の意義としましては（スライド 4），密な連携を構築するということの次に，医療職の教育プログラムの行動指針を策定するといったこととか，これが一番大事なんですけれども，輸血関連学会の認定看護師が病院で指導的な立場で業務を行っている現状を受け，会議に参加を促すということで，後半の看護師研究会（仮称）についてはまだ何にも決まっておりませんけれども，こういったことが提言されております（スライド 5，6）．

その他細胞治療の対応とか，あるいは高水準の輸血検査の提供といったことも毎年提言しているわけなんですけれども（スライド 7，8），この会議，参加校はほぼ全国の大学病院の一部の本院が参加されておられます．北海道，東北，関東，関東甲信越，それと中部，近畿，中・四国，九州，沖縄のブロックに分かれておりますけれども，先ほどちょっと室井先生から特定機能病院の話もございましたが，この病院のほとんど全て，分院は違いますけど，特定機能病院です（スライド 9）．特定機能病院は大学病院以外にあと，東京の国がん，国立国際，がん研有明ですか，それと大阪府立成人病ぐらいだと思うんですけれども．したがって大学病院はかなり特定機能病院になってるということで，特定機能病院で輸血がどうやってちゃんとやってるかということも，問題になってくるわけでございます．

さて，それで 28 年度アンケート，一部前年度のアンケートを含めますけれども，大学病院輸血部における看護師の役割といったことについて，ご紹介したいと思います（スライド 10–18）．こちらは本年のアンケート結果なんですけれども，卒後教育ですので，研修医対象だと思うんですけれども，輸血学の講座とか輸血部で私たち教員が担当する，実際の対象はどうかということを伺ったところ，全職種，医師，技師の他に看護師が 3 割ぐらいを占めている（スライド 11）．ですので，実際に看護師も教育の対象になっているということで，大学病院では積極的に看護師に輸血教育を行っているという実情が伺われます．先ほど少し輸血管理料の所で半田先生のほうから，輸血療法委員会の話がちょっとだけ出てきたんですけれども，輸血療法委員会を持っているということが，輸血管理料取得の大きな条件になっているわけなんですが，その委員会の構成員の中に看護師が入っているかというアンケートです（スライド 12）．回答総数が 72 で，平均すると最大で 8 人，平均すると大体 0.9 人，約 1 名の看護師さんが必ず入っているという実態になっていて，輸血療法委員会は病院長も出席している非常に重要な院内の委員会ですので，その中に看護師さんが必ず入っているという現状も伺えます．

「実際に輸血業務を行っている看護師さんがいらっしゃいますか」というこちらの質問なんですが，専任が 2 割，他の業務と兼任ということで，約 1 割強の病院は輸血療法を行う看護師はいないという回答でした（スライド 13）．特定機能病院にしてこういう感じ，大学病院にしてこういう感じですので，専任でやっていらっしゃる看護師さんはまだちょっと少ないのかなという現状です．実際に看護師さんがどういった仕事に携わっているかということをお尋ねしたんですけれども，さまざまな分野にわたるということが分かりました（スライド 14）．最も多いのは自己血採取ということで，6 割強の回答が来ておりますけれども，製剤の処理とか，輸血中，後の観察といったような，輸血の実際に関わる重要な業務を担っていただいているということがよく分かりました．関わってほしいとい

うことで，前のアンケートはこれは松山の2年前のアンケートですけれども，26年となってますが，輸血業務にもっと携わってほしいとか，アフェレーシス業務もやってほしい，そういった要望が上がっているのがちょっと印象的でした（スライド15）．

さて，輸血管理料のお話が先ほどから出ておりますけれども，この病院群がどれくらい取得しているのかということを，毎年アンケート調査されてますけれども，こちらは最新の，昨日行われた会議のアンケート結果ですけれども，1を取得しているのが8割，2を取っていて，1を目指しているという所がこれだけ，2は取っていると，できていないという病院も少数ながらございました（スライド16）．ですので，さすがに大学病院となりますとかなりの所で管理料は取得できているというふうに考えられますが，その内訳を見ますと，実際には今，お話がありましたように，管理料は適正使用との2階建てになっておりますので，実際に適正使用加算を取得しているということになりますと，急に減ってしまって4割弱になってしまうということになります（スライド17）．一部の病院ではどうしてもFFPとかアルブミンの使用量を抑制できないために，取得できていないと．当名古屋大学も昨年取得できませんでした．そういったことで苦しんでいるという現状がよく分かりました．

さて，最後に学会認定看護師を受験されなかった看護師さんについて，24年度の岡山のときにアンケートをされていたのを見つけましたので，ちょっとだけご紹介したいと思います（スライド18）．少し前の話なので，今はもう少し事情は変わっていると思うんですけれども，「候補者がいない」，「受験するインセンティブが乏しい」といったのが，ちょっと回答として目立ったのかなという感じです．その他にもう一つあって，看護協会が共催しない．これは先ほどの話で，現在は推薦になっているということなので，改善したのかなと思うんですけれども，看護部門が看護協会との関係で消極的であると．さらに関わる看護師さんが毎年入れ替わる．看護師部門の宿命として勤務交代があるといったことも，認定看護師を取られない理由の一つとして挙がっておりました．ということで，あまりいいまとめにはならないんですけれども，輸血看護師が部門に配置されている大学病院というのは，グレートマジョリティーと言えないとは思うんですけれども，実際には看護師さんが大学病院の輸血部門で果たす役割は大きく変わっていると考えられます．大学病院は管理料を取りなさいという意欲は非常に高いので，スタッフのレベルアップをしないと，管理料が取れないという要件になれば，病院からの支援につながると考えられます（スライド19）．以上です．（拍手）

紀野：はい，松下先生，ありがとうございました．何かご質問ございますでしょうか．はい，なければ次に進んでいきたいと思います．

スライド１

学会認定・臨床輸血看護師を輸血管理料取得要件に

一全国大学病院輸血部会議からの視点一

名古屋大学医学部附属病院　輸血部　松下　正
全国大学病院輸血部会議　代表幹事

スライド２

スライド３

全国大学病院輸血部会議

- 全国大学病院輸血部会議は、全国の国立、公立、私立の大学病院の輸血部門の医師と臨床検査技師が集まり、大学病院の輸血部門における、輸血医学教育・啓発活動、輸血・細胞療法全般に係わる問題、輸血部門の管理運営に係わる問題を年1回討議しています。
  - 代表幹事　名古屋大学医学部附属病院 輸血部 松下 正
  - 副幹事　福島県立医科大学附属病院輸血・移植免疫部 大戸 斉
  - 副幹事　自治医科大学附属病院輸血・細胞移植部 室井一男

スライド４

平成28年度全国大学病院輸血部会議宣言　より

平成28年10月7日（木）
金沢文化ホール
当番校　富山大学

スライド５

全国大学病院輸血部門の在り方
多様な医療分野との横断的な領域を担う部門

その1）
輸血・細胞療法の課題を克服するために、行政や日本赤十字社、及び日本輸血・細胞治療学会などとの密な連携を構築する。

スライド６

輸血教育の量と質

その2）
医学国際基準の輸血教育を実現するために、医療職の卒前・卒後教育プログラムの行動指針を策定し、全国共通のシラバスや教材を作成・提供する。

スライド７

細胞治療への対応

その5）
細胞治療の進歩に伴う高度先進医療を担う大学病院の輸血部門において、人材育成、技術の習得を支援し、再構築に向けたノウハウを共有する。

スライド８

高水準の輸血検査の提供

その5）
大学病院輸血部門として、高水準の輸血検査を行い、必要に応じてリファレンスラボとして判定困難な検体の検査を受け入れ、地域の人材育成や知識と技術の向上に貢献する。

スライド９

参加校一覧

北海道	慶應義塾大学病院	金沢医科大学病院	奈良県立医科大学附属病院
北海道大学病院	順天堂大学医学部附属順天堂医院	福井大学医学部附属病院	中四国
札幌医科大学附属病院	順天堂大学医学部附属練馬病院	山梨大学医学部附属病院	鳥取大学医学部附属病院
旭川医科大学病院	昭和大学病院	信州大学医学部附属病院	島根大学医学部附属病院
東北	昭和大学藤が丘病院	岐阜大学医学部附属病院	岡山大学病院
弘前大学医学部附属病院	帝京大学医学部附属病院	浜松医科大学医学部附属病院	川崎医科大学附属病院
自千医科大学附属病院	帝京大学ちば総合医療センター	名古屋大学医学部附属病院	広島大学病院
東北大学病院	東京慈恵会医科大学附属病院	名古屋市立大学病院	山口大学医学部附属病院
秋田大学医学部附属病院	東京女子医科大学病院	愛知医科大学病院	徳島大学病院
山形大学医学部附属病院	東京女子医科大学八千代医療センター	藤田保健衛生大学病院	香川大学医学部附属病院
福島県立医科大学附属病院	東邦大学医療センター大森病院	三重大学医学部附属病院	愛媛大学医学部附属病院
関東甲・越	東邦大学医療センター大橋病院	近畿	高知大学医学部附属病院
筑波大学附属病院	日本大学医学部附属板橋病院	和歌山県立医科大学附属病院	九州・沖縄
自治医科大学附属病院	日本医科大学付属病院	滋賀医科大学医学部附属病院	九州大学病院
埼玉医科大学病院	東京医科大学病院	京都大学医学部附属病院	産業医科大学病院
埼玉医科大学総合医療センター	東京医科大学八王子医療センター	京都府立医科大学附属病院	福岡大学病院
埼玉医科大学国際医療センター	東京医科大学茨城医療センター	大阪大学医学部附属病院	久留米大学病院
獨協医科大学病院	東海大学医学部付属病院	大阪市立大学医学部附属病院	佐賀大学医学部附属病院
群馬大学医学部附属病院	横浜市立大学附属病院	大阪医科大学附属病院	長崎大学病院
千葉大学医学部附属病院	北里大学病院	関西医科大学附属枚方病院	熊本大学医学部附属病院
防衛医科大学校病院	聖マリアンナ医科大学病院	関西医科大学附属滝井病院	大分大学医学部附属病院
東京大学医学部附属病院	新潟大学医歯学総合病院	近畿大学医学部附属病院	宮崎大学医学部附属病院
東京大学医科学研究所附属病院	中部	神戸大学医学部附属病院	鹿児島大学病院
東京医科歯科大学医学部附属病院	富山大学附属病院	兵庫医科大学病院	琉球大学医学部附属病院
杏林大学医学部付属病院	金沢大学附属病院		

スライド 10

28年度会議アンケートから

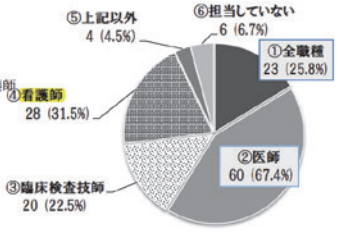
大学病院輸血部における看護師の役割

スライド 11

28年度　富山

7）輸血医学（輸血医療）の卒後教育について、輸血学講座または大学病院輸血部（門）の教員が担当する研修（実技含む）は、貴施設のどのような職種を対象としていますか？（n=89）97.8%

【⑤上記以外】具体的に：
★研修医のオリエンテーション
★研修医
★輸血医療を実施する医師・看護師・検査技師以外のスタッフ
★新卒医師



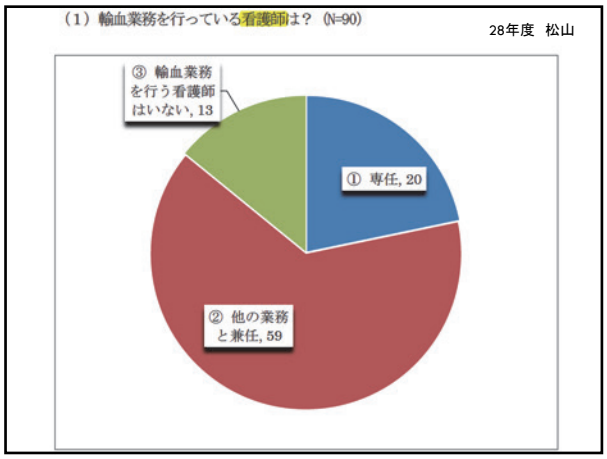
スライド 12

28年度　富山

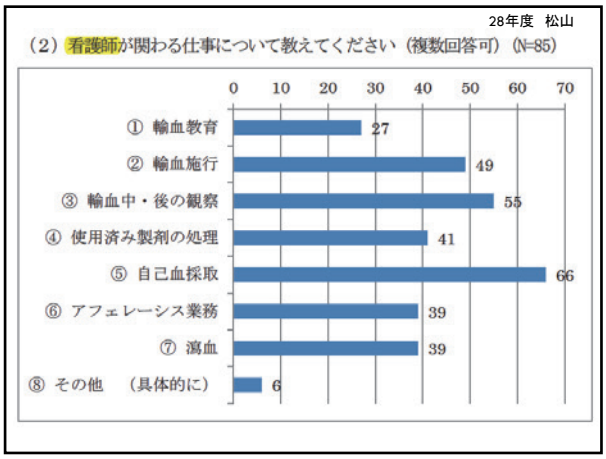
1）輸血療法委員会の構成員について含まれる職種をお答えください。（複数選択可）

（n=89）97.8%	平均	最大	最小
① 輸血部（門）医師（n=87）	3.1人	21人	1人
うち認定医：	1.2人	3人	0人
② 輸血部（門）臨床検査技師（n=87）	2.1人	10人	0人
うち認定輸血検査技師：	1.4人	4人	0人
③ 輸血部（門）看護師（n=72）	0.9人	8人	0人
うち学会認定・臨床輸血看護師：	0.3人	2人	0人
学会認定・自己血輸血看護師：	0.2人	4人	0人
アフェレーシスナース：	0.1人	1人	0人
④ 事務員（n=81）	1.4人	4人	0人
うち輸血部（門）所属事務員：	0.1人	1人	0人
⑤ その他（n=2）	1.0人	1人	1人
（薬剤師、認定看護師の上司）			

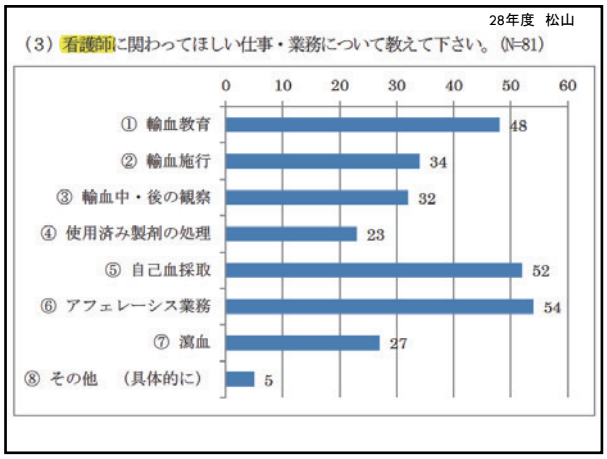
スライド 13



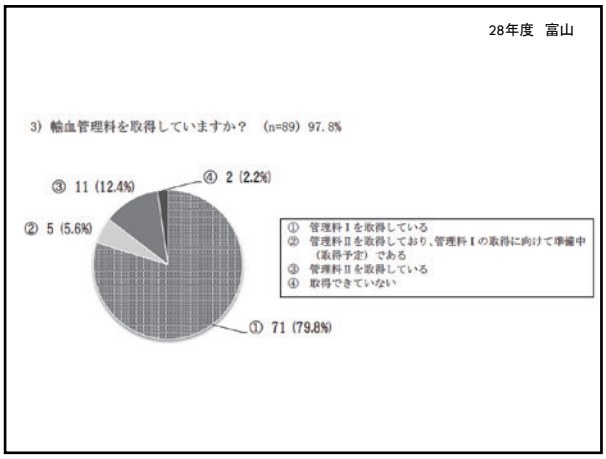
スライド 14



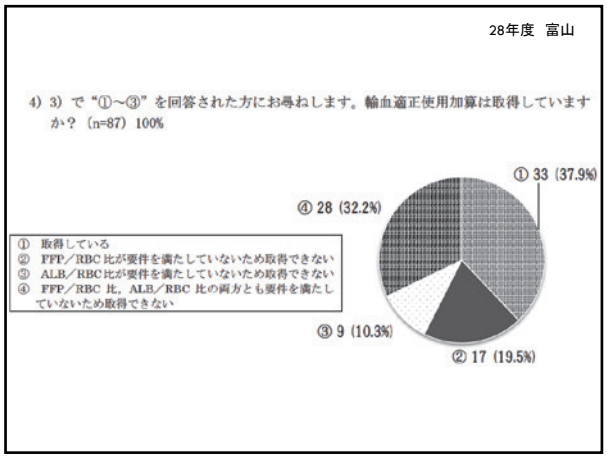
スライド 15



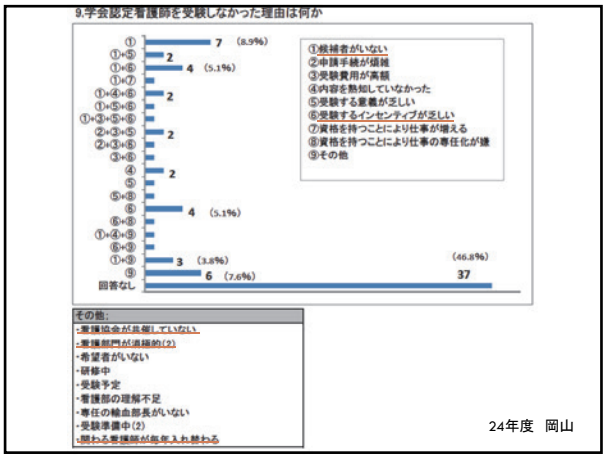
スライド 16



スライド 17



スライド 18



スライド 19

大学病院輸血部会議からの視点

- 学会認定・臨床輸血看護師が輸血部門に配置されている大学病院は大多数とは言えないが、大学病院輸血部ではすでに輸血部の運営に大きく関わっていると考えられる
- 大学病院の管理料取得への意欲は高く、スタッフのレベルアップへの病院からの支援につながると予想される
- 今後学会認定・臨床輸血看護師が大学病院輸血部の運営に大きく寄与すると考えられる